

インフルエンザの治療

主な治療法は抗インフルエンザウイルス薬
(タミフル・リレンザなど)の投与です。

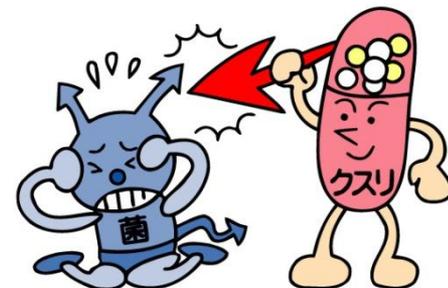
→ 出来るだけ早く投与する事が大事です

タミフル・リレンザなどの抗インフルエンザ薬は、インフルエンザが体内で増殖するのを抑えます。

※ インフルエンザウイルスが増えてしまってからでは効果が期待できません。

出来る限り早期の治療が重症化を防ぎます。

発症後
48時間以内



インフルエンザに対するお薬の作用点



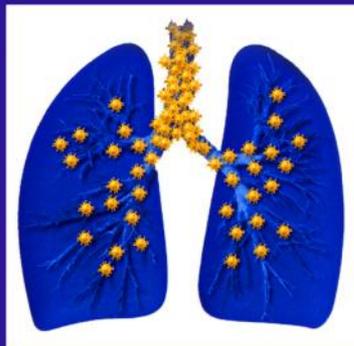
患者のくしゃみや咳（飛沫）



ウイルスが上気道に感染



上気道・肺でウイルスが増殖



発熱・頭痛などの全身症状が発現



ハイリスク患者では肺炎に注意

抗インフルエンザ薬

飲み薬

タミフル

吸入薬

リレンザ

イナビル

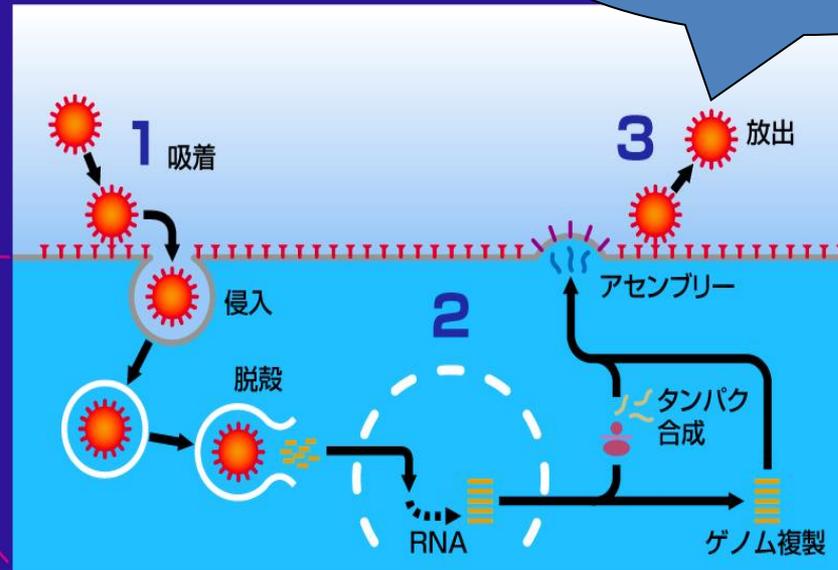
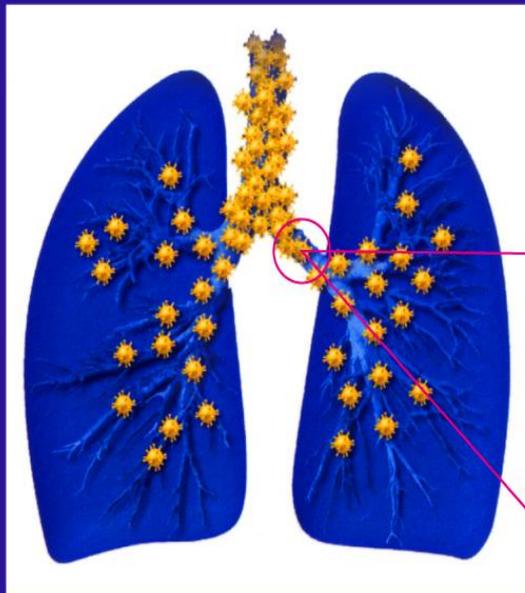
注射薬

ラピアクタ

体内でインフルエンザウイルスが増えるのを防ぎます

抗インフルエンザ薬の作用

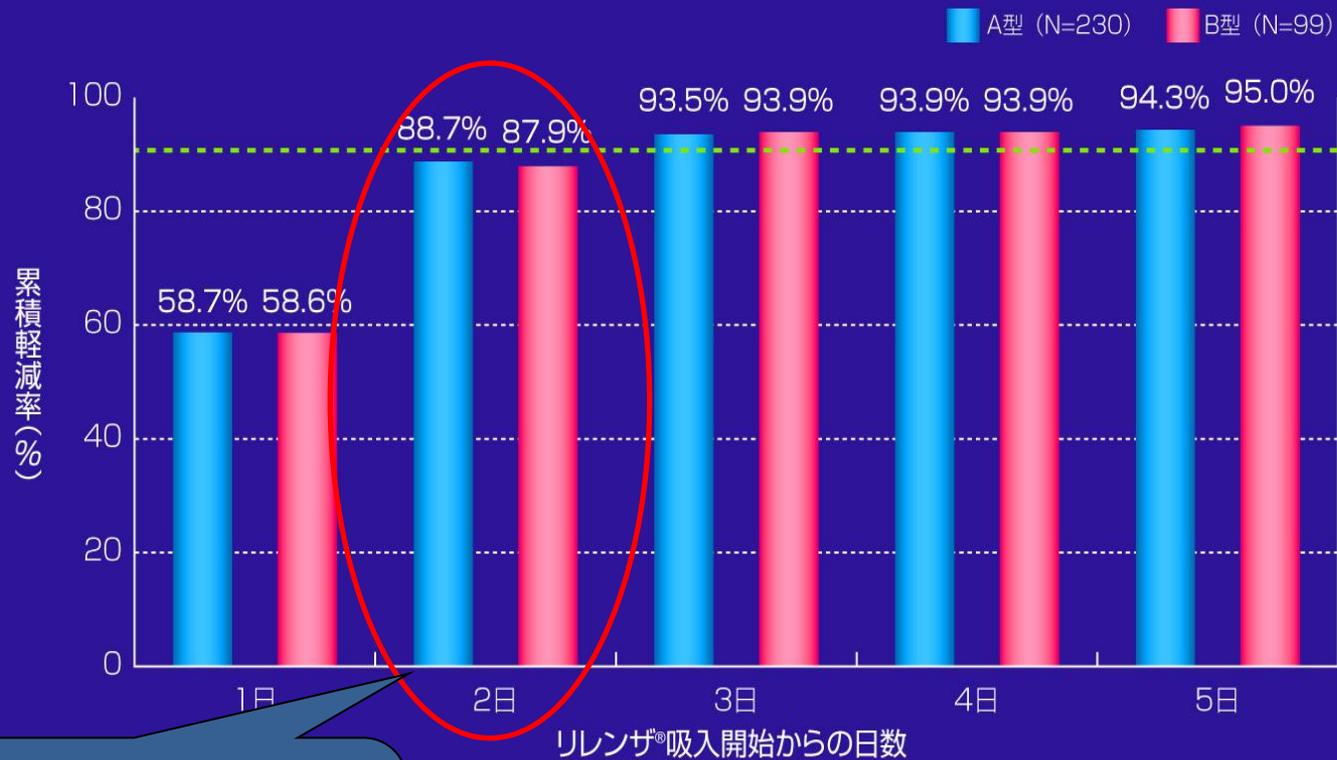
抗インフルエンザ薬は、このウイルスの放出を抑えます。



気道に侵入したインフルエンザウイルスは、
8時間後に数百から数千に増殖し、
24時間後には数百万倍に増殖する。

体内に侵入したウイルスを殺すことはできません。
だから、体内でウイルスを増やさないことが重要になります。

リレンザ投与後の体温軽減率



約9割の人が、リレンザ使用後2日で解熱しています。
(タミフルも同じ)

体温が37℃未満に軽減した患者の累積率を示す。

ウイルスの残存率

タミフル服用後の変化

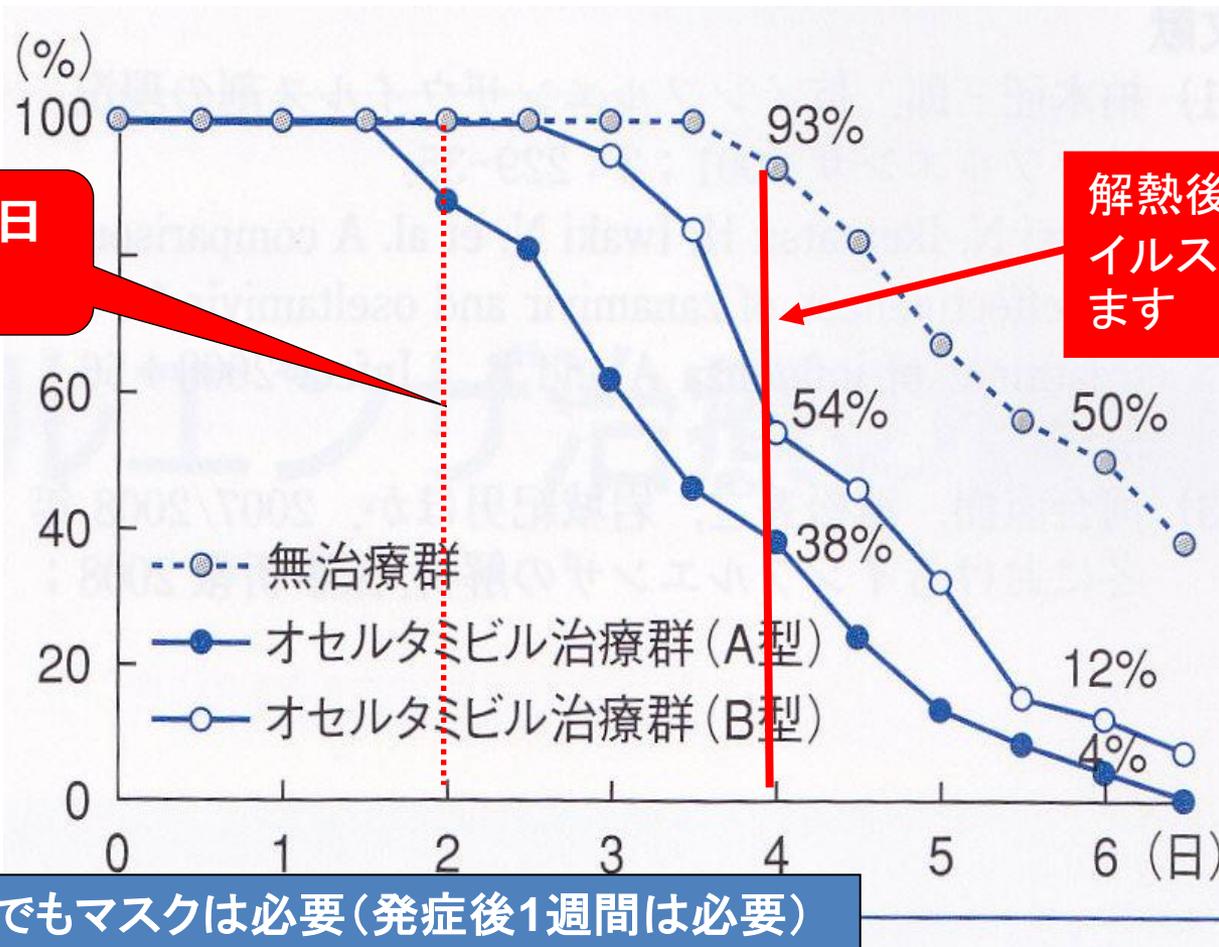


図 3 発熱時からの経時的ウイルス残存率 (迅速診断による)

よく使用されるインフルエンザの薬



タミフル
1日2回 5日間



ラピアクタ
1回



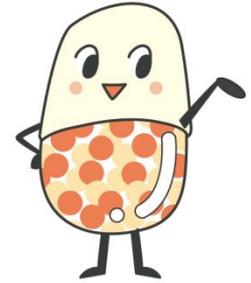
イナビル
1回



リレンザ
1日2回 5日間

タミフルの服用方法

- 1日2回 朝夕食後
- 発熱などで食欲がない場合、
タミフルは食事の影響を受けないので、
1日2回時間を決めて服用してください。
朝7時、夜7時など



空腹時より食後の方が吐き気、食欲不振、腹痛、下痢などの消化器系の副作用が少ないと考えられます。

イナビルの使用方法

10歳以上は2個使用します

準備 ▶ ①を吸入



薬剤トレーをスライドさせない状態で軽く「トントントン」と叩き、容器内のお薬を下に集めます。

薬剤トレーをスライドさせて叩くとお薬がこぼれます。

ラベルをはがさずに薬剤トレー①を矢印方向へ端までしっかりとスライドさせます。

吸入口をくわえて「スーッ」と大きく吸い、2～3秒息を止めた後、吸入口に息を吹きかけないようにゆっくりと息を吐きます。

「スーッ」と吸い込む

C ②の吸入準備 ▶ ②を吸入



次は薬剤トレー②を矢印方向へ端までしっかりとスライドさせます。

吸入口をくわえて「スーッ」と大きく吸い、2～3秒息を止めた後、吸入口に息を吹きかけないようにゆっくりと息を吐きます。

「スーッ」と吸い込む

D 元の状態に戻す



薬剤トレー①をスライドさせて必ず元の状態に戻してください。

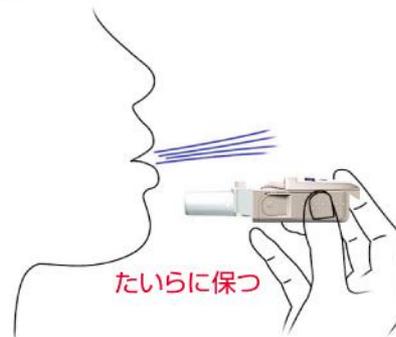
E お薬の吸い残しをなくすために、もう一度A～Cを繰り返してください

リレンザの使用法

1 ディスクに穴をあけます。



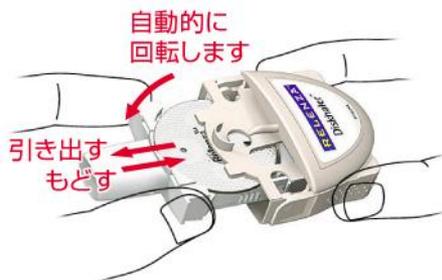
2 息を吐き出します。



3 薬を吸い込みます。



4 2つめのブリスターの吸入準備をします。



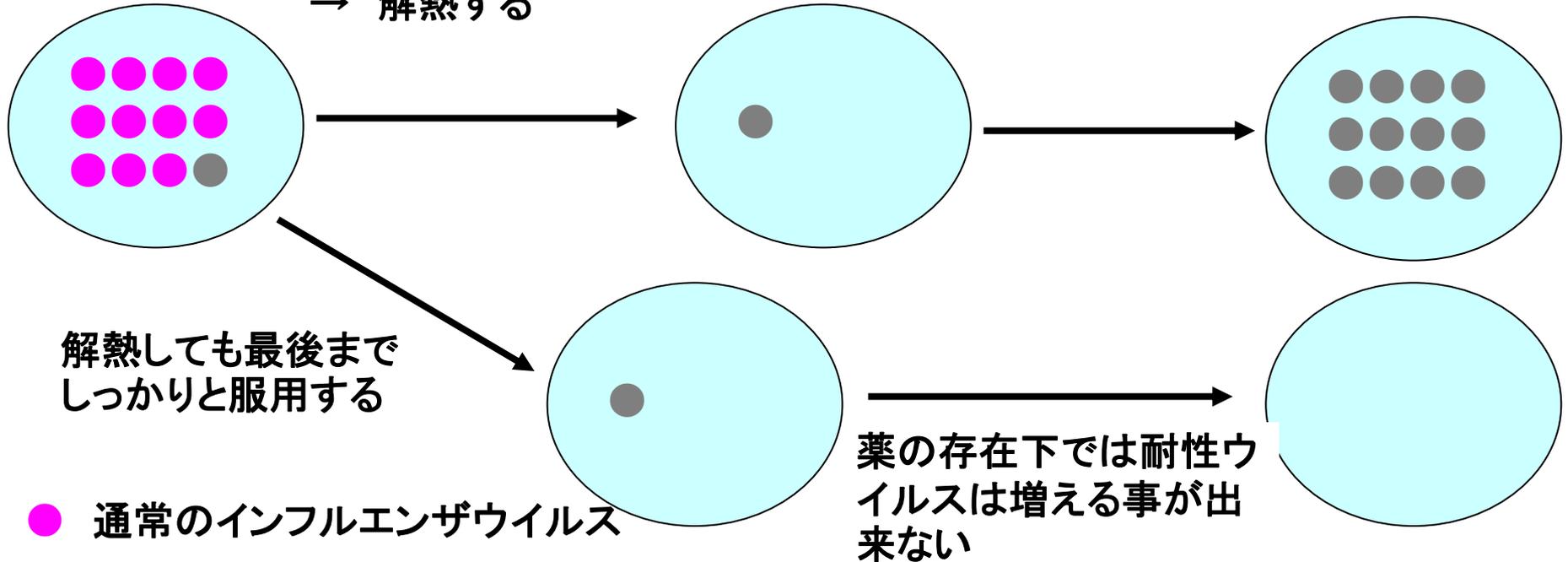
5 吸入方法の1～3の操作を繰り返し、2つめのブリスターの吸入を行います。

2つめのブリスターの吸入が終わったら、次回の吸入のために、トレーを動かなくなるまで引き出し、再び押しもどします。

耐性菌を拡げないためにも

タミフルを服用すると、
タミフルの効くウイルス
がすぐに減少していく
→ 解熱する

解熱後内服をやめてしまうと、生き残った
耐性のウイルスだけが増えていく



- 通常のインフルエンザウイルス
- 耐性のインフルエンザウイルス

免疫力が耐性ウイルスを駆逐していく

薬は最後までしっかりと！

本来耐性ウイルスは繁殖力の弱い菌であり感染力も弱いので、しっかりと服用する事で耐性菌の拡がりを抑えられる